

# INFECTION JOURNAL

## A randomized, controlled trial of an aerosolized vaccine against measles.

Low N, Bavdekar A, Jeyaseelan L, et al : *N Engl J Med* 2015 ; 372 : 1519-1529.

慶應義塾大学医学部小児科学 専任講師

新庄正宜

**TAKE HOME MESSAGE :** 麻しんワクチン : エアロゾル吸入接種は皮下接種より劣る.

**研究実施場所 :** インド

**研究方法 :** ランダム化臨床試験. オープンラベル非劣性試験. 対象は、9カ月~11.9カ月の乳児. エアロゾル吸入群(麻しんワクチンをエアロゾル吸入接種)と皮下注群(麻しんワクチンを皮下接種)に無作為割り付け. 主要評価項目は、接種後91日における抗体獲得率および有害事象. 使用したウイルス株はEdmonston-Zagreb 株.

**SUMMARY 要旨** 2,004人が参加し、有効なデータが得られたのは1,560人(77.8%). 抗体獲得率はエアロゾル吸入群で85.4% (775人中662人)、皮下注群で94.6% (785人中743人)となり、有意差をもってエアロゾル吸入群で劣っていた(-9.2%, 95% CI : -12.2~-6.3). いずれの群においても深刻な有害事象は生じず、両群間の有害事象は同様であった. ただし、鼻水はエアロゾル吸入群で44.0%、皮下注群で38.7%と、エアロゾル吸入群で多かった(p=0.02). エアロゾル吸入による麻しんワクチン接種は、針を使わないという利点があり、免疫原性も有するが、皮下接種に比べて低効果である.

## Efficacy of neonatal HBV vaccination on liver cancer and other liver diseases over 30-year follow-up of the Qidong hepatitis B intervention study: a cluster randomized controlled trial.

Qu C, Chen T, Fan C, et al : *PLoS Med* 2014 ; 11 : e1001774

千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野 准教授

石和田稔彦

**TAKE HOME MESSAGE :** 新生児期からのB型肝炎(HBV)ワクチン接種は、若年成人期の肝臓がんや肝疾患関連死に対して高い予防効果が認められる.

**研究実施場所 :** 中国江蘇省 Qidong (啓東)市

**研究方法 :** 1985年~1990年の期間に啓東市で出生した約74,000人の新生児に対して、HBVワクチン3回接種を新生児期から行う群(思春期に1回追加接種実施)と、行わない群(思春期に3回初回接種実施)の2群に無作為に分け、合計で30年間フォローアップし予後について比較検討した.

**SUMMARY 要旨** すべての小児に対する新生児期からのHBVワクチン接種は、世界中の多くの国々で実施されており、わが国でも定期接種化が予定されている. しかしながら、これまで新生児期のHBVワクチン接種の肝臓がんやHBV関連肝疾患に対する長期的な予防効果は明らかにされていなかった. この研究は、HBVの侵淫度が高い中国の地方都市において、1985年~1990年にかけて実施された新生児に対するHBVワクチン接種のランダム化比較試験の対象症例を30年間フォローアップし、まとめた報告である. その結果、新生児期からHBVワクチン接種を行った群では、思春期に接種を行った群と比較し、肝臓がんに対して84%、重症肝疾患による死亡に対して70%、乳児期の劇症肝炎に対して69%の予防効果があることが判明した. また、この研究では血清疫学的な検討から、HBs抗原陽性母体から出生した児に対しては、新生児期からのHBVワクチン接種に加え、思春期に1度追加接種を行うことが、HBV感染予防により有効であることを示唆している.